

やはり俺の中国語組版はまちがっている

文 編集部 いなにわうどん

1 はじめに

ご無沙汰しております、いなにわうどんです。最近仕事の方で中国語組版に関わる機会があり、その際に少し違和感のある組版と遭遇しました。図1は感嘆符(!)を含む縦組の文章を示したものです。和文(図1左)では感嘆符が中央に配置されるのに対し、中文(図1右)では感嘆符が右側に配置され、日本語組版に親しんだ我々にとっては些か不自然に見えます。



図1 日本語組版と中国語組版の比較

文献を当たったところ、W3CのChinese Layout Task Force*1から発行されたRequirements for Chinese Text Layout (通称CLReq)という技術ノートに約物*2の配置に関する記述がありました。CLReq曰く、中国語の簡体字の文章において、図1のように感嘆符を右側に配置することは正当な組版規則であり*3、筆者の中国語組版に対する認識が誤っていたというわけです*4。

W3C*5からは、日本語組版の規則を示す日本語組版処理の要件(通称JLReq)*6が公開されており、CLReqはこれの中文版と捉えることができます。CLReqを読み進めてみたところ、その他にもJLReqとの差異を見出すことができたため、本稿ではその一部を紹介しながら興味深き中国語組版を紐解きます*7。

*1<https://w3c.github.io/clreq/homepage/>

*2組版に使用する記号のこと。句読点、括弧類など

*3後述しますが、繁体字の場合は日本語と同様に左右中央に配置します

*4タイトル回収

*5原点を辿るとJLReqはJIS X 4051を準拠とするため1993年まで遡ります

*6Requirements for Japanese Text Layout. <https://www.w3.org/TR/jlreq/>

*7本稿では組版ルールに焦点を当て、具体的な実装までは言及しません。CLReqは英語+中国語で記述されているため、組版用語の日本語訳は筆者によるものです

1.1 CLReq の構成

CLReq は以下の 4 章+付録から成立し、JLReq を踏襲した構成となっています。本稿ではこのうち 1-3 章を取り上げます。

1. 序論：Introduction
2. 中国語組版の基本：Basics of Chinese Composition
3. 行の組版処理：Line composition
4. 見出し・注・図版・表・表現の配置処理：Positioning of Headings, Notes, Illustrations, Tables and Expressions

2 序論

CLReq 第 1 章では序論として以下に掲げる中国語組版の特徴が示されています。以下の 2, 3. は日本語とも共通した特性です。

1. 中国語は繁体字・簡体字と 2 つの字体を有する。独自の地域標準（中国本土、台湾、香港、マカオ、シンガポール、マレーシア等）として、異体字やストロークの数、配置規則等が異なる場合もある
2. 縦組・横組と 2 つの書字方向を持つ
3. 漢字や約物は 1:1 の正方形で設計される

その後は CLReq の編集方針として、主に欧文組版や JLReq との差分について焦点を置いたことや、主に書籍を対象とすることなどが言及されています。

3 中国語組版の基本

CLReq 第 2 章では中国語組版の基本的な事項が記されています。ここでは中国語組版に特徴的な項目のみを取り上げます。

3.1 使用文字種

中国語を構成する文字は漢字・句読点・英数字・ラテン文字等が混在しています。主な部分を占める漢字には繁体字（Traditional Chinese）と簡体字（Simplified Chinese）が存在し、それぞれ以下の地域で使用されています*8。

繁体字 台湾、香港、マカオ

簡体字 中国本土、シンガポール、マレーシア

*8 同一言語に 2 つの文字体系が存在する背景には、1950 年代に中華人民共和国で推められた「文字改革」政策によって簡体字が誕生したという歴史があります

3.2 組体裁

組体裁は、文字と文字に間隔を入れないベタ組み（密排、solid setting）を原則としますが、以下の場合には等間隔のスペースを入れる（疏排、loose setting）*9 ことがあります。

- 文字数の少ないランニングヘッド（柱）
- 文字数が少ない図表キャプション（図表とのバランスを取るため）
- 一行に数文字程度しかない詩
- 子供を主な読者とする出版物

後述する禁則処理等によって行長に過不足が生じた場合には、日本語同様に行頭と行末を合わせる均等揃えも一般に行われます。加えて、雑誌の見出し等の文字組みでは、詰め組みも行われています*10。図2に中国語組版での文字組みの例を示します。

ベタ組み

均匀間隔或關閉字母之間的空間

均等空け

均 匀 間 隔 或 關 閉 字 母 之 間 的 空 間

均等詰め

均匀間隔或關閉字母之間的空間

図2 中国語の組体裁

3.3 書体

日本語では明朝体、ゴシック体が主に選定されますが、中国語では次の4書体（図3）が代表的です。宋朝体は日本でも存在する*11ものの、あまり馴染み深くはない気がします。

明朝体（宋体、Song）

本文や見出し等に幅広く使用される。

楷書体（楷体、Kai）

公文書や教科書等に使用される（台湾の公文書はすべて楷書体）。見出しや会話文等、他と区別すべき部分に使用される。

ゴシック体（黒体、Hei）

見出しや看板等に使用される。印刷書体として採用される機会は極めて稀だったが、時代の変化とともに徐々に登場頻度を高めつつある。

*9日本語では等間隔に文字を空けて組むことが少なく、適切な訳語が見当たらないため、本稿では便宜上「均等空け」と呼ぶことにします

*10CLReq 中では、文字を均等に詰めた（1 歯詰め等）図が掲載されています。漢字は基本的に字面が均一であるため、プロポーショナル詰めではなく、均等詰めだけでも十分な効果が得られるのかもしれませんが

*11写研からは1965年に石井宋朝体（<https://archive.sha-ken.co.jp/typeface/075-0-LS/>）が発表されています

宋朝体（仿宋体、Fangsong）

明朝体と楷書体の中間に位置する書体で、副題や引用文等に使用される。中国本土の公文書は宋朝体で記述される。

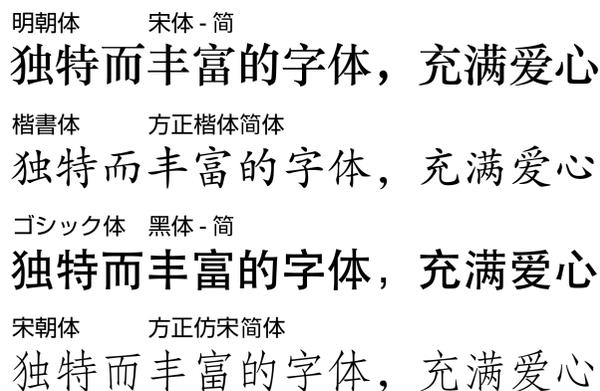


図3 中国語組版で主に使用される書体

3.4 サイズ表記

印刷技術の変遷に伴い、サイズ表記として活版時代には号（hào）と呼ばれる単位が、写植時代には日本でもおなじみ級数^{*12}が、現在はDTPの普及によりDTPポイントが導入されました。しかし、現在でも号での指定が主流なようです。また、行長は文字サイズの整数倍とし、行間は文字サイズに対して50–100%程度で指定します。

3.5 書字方向

中国語では、縦組・横組の2つの書字方向が存在しますが、これらの使用場面や頻度は地域によって異なります。

台湾・香港

縦組・横組の両方が使用される。特に台湾では、政府機関による頒布物、教材、自然科学系の書籍は主に横組が、詩や小説などの文学作品には縦組が採用される。

中国本土

ほとんどの出版物が横組で組まれる。従来、中国語の出版物は縦組で構成されていたものの、翻訳出版物の増加や横組を主に扱うワープロの影響を受けて、横組が主流となったとされる。

縦組の文章に英数字が混在する場合は、日本語同様に1文字ずつ正立、全体として90度回転、縦中横^{*13}のいずれかで処理されます。漢字と英数字が隣接する場合は四分アキを挿

*12 写真植字で導入された単位。1級（Q）= 1 齒（H）= 0.25 mm

*13 縦組の行中に、数字等を横組で配置すること

入します*14*15。また、全体の書字方向が縦組の場合でも、図表・キャプション・見出し等に限っては横組とする場合があります。

4 行の組版処理

CLReq 第3章は行組版処理をトピックとした章です。約物、注・ルビ、段落調整処理、行調整処理に関心を分けて第3章の内容を概説していきます。

4.1 約物の扱い

句読点

文末には句点「。」(IDEOGRAPHIC FULL STOP、U+3002)を、節等の文章の区切りには全角カンマ「,」(FULLWIDTH COMMA、U+FF0C)を挿入します。日本語における読点*16「,」(IDEOGRAPHIC COMMA、U+3001)は、3つ以上の項目からなるリストの要素を区切る目的で主に使用されます。テン「,」とカンマ「,」を区別する点が特徴的です。ただし日本語同様、学術書等の欧文を多く含む文章では全角ピリオド、全角/半角カンマを句読点として使用することもあります*17。

配置方法も独特で、簡体字(中国本土)では日本語と同様に四隅に配置するのに対し、繁体字(台湾・香港)では文字枠の中央に句読点を配置します(図4)。これらの配置の違いはUnicode上では区別されません。「はじめに」で述べた感嘆符「!」や疑問符「?」は縦組時に配置が異なり、簡体字では右側に、繁体字では中央に配置されます。

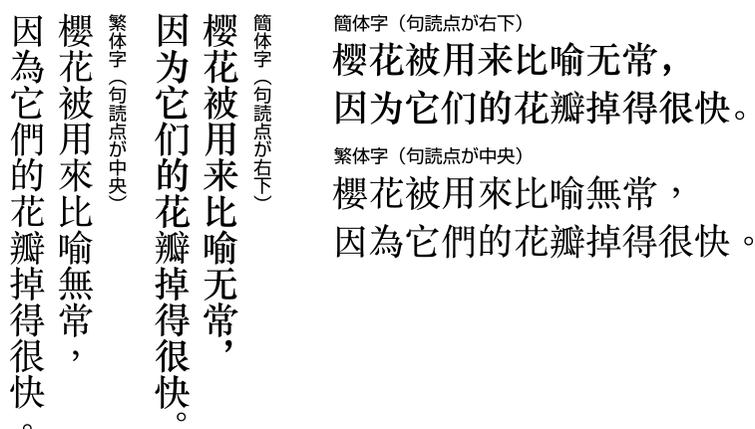


図4 簡体字・繁体字での句読点の配置

*14最近 Twitter でも議論を呼んだ話題ですが、CLReq には四分アキの代わりに半角スペース (SPACE、U+0020) を挿入することがあると明示されています

*15行長に過不足が生じる場合は二分までスペースを広げることが可能で、こうすることで前後の漢字をベタ組みとして組み上げることが可能となります

*16CLReq では secondary comma と呼称されています

*17o (オー) や O (ゼロ) と句点の混同を避けるためだそうです

引用符、ダッシュ

縦組の場合は鉤括弧、横組の場合はクォーテーションと使い分けがなされます。鉤括弧の使い方にも地域差があり、台湾では鉤括弧（「」）をまず使用し、鉤括弧の中で二重鉤括弧（『』）を使用します。一方の中国本土は逆で、二重鉤括弧またはダブルクォーテーション「””」を適用してから、鉤括弧ないしシングルクォーテーション（“”）を使用します。ダッシュや三点リーダを使用する場合は倍角にします*18。

その他約物類

圏点

横組の圏点は文字の下側に、縦組の圏点は文字の右側に配置します。

中黒

中黒「・」の幅は台湾・香港では全角、中国本土では半角（二分）です。

書籍名・固有名詞

書籍名を表す場合は、低い波線「〰」(WAVY LOW LINE、U+FE4F)を文字の下（縦組では左）に配置するか、二重山括弧「《》」で囲みます。固有名詞や人名の下には下線を引きます。圏点とこれらの線は、横組の場合は片面設定（single-sided setting、必ず下側に付されることから）と、縦組の場合は両面設定（double-sided setting、左右いずれかに付されることから）と呼ばれます。

故人の表現

人名を黒い罫線で囲むことで故人を表現します*19。最近亡くなった方を表すために用いられ、広く知られた故人には適用されません。

4.2 注、ルビの扱い

注音符、ピンイン

中国語にも行間注（Chinese interlinear annotation）と呼ばれるルビが存在し、漢字の発音や意味を示すために使用されます。ただし、教育目的として文章全体にルビを振ること（総ルビ）が中心で、日本での用例のように難読漢字のみにルビを振ることは少ないようです。

台湾では発音を示すのに注音符（Zhuyin）が用いられ、縦組・横組いずれの場合も文字の右側に密着して配置するのが特徴的です。注音符と親文字のサイズの比率は 3:10 を基本とし、中付き*20 にします（図 5）*21。

一方の中国本土ではピンイン（拼音、Pinyin）が公式に採用され、横組の文章に限定して使用します。文字を基準に発音を示す場合は文字の上側に置き、単語を基準とする場合は

*18ダッシュに関しては「—」（EM DASH、U+2014）を2つ続けることが多いですが、本来は「——」（TWO-EM DASH、U+2E3A）の使用が推奨されています

*19寡聞なもので「最強」などと適当な使いばかりしていたのですが、欧米では短剣符「†」を故人の表現に使用することです

*20親文字に対してルビを中央揃えにすること

*21CLReq ではその他に多くの配置規則が紹介されていますが、本稿では割愛します



図5 注音記号の配置 (CLReq に登場する図を基に筆者作成)

2字下げ

校服和教科書不得擅自更改。這很有趣，但我繼續度過一些空閒時間。我只是想弄清楚如何表現才能假裝冷靜。如果這就是愛，那麼日常世界就脆弱到足以失去孤獨的力量。突出的感情仍然膽小，每個人都會受到傷害。

凸排

香港：中華人民共和國南部的一個特別行政區。它由九龍半島、香港島和附屬小島組成。

図6 2字下げと凸排

上側ないし下側に配置します。ピンインのサイズは親文字の半分で、これは日本語のルビの影響を受けたものです。注音符、ピンインを併記することも可能で、この場合は注音符を右側に、ピンインを下側（縦組みであれば左側）に表記します。いわゆる両ルビです。

二言語注釈、行間注

ライトノベル等で外来語をそのまま表現する際には、二言語注釈 (bilingual annotations) が使用されます。表現としては、中国語に対して外来語のルビを振るかその逆のいずれかで、日本語のルビと同じ方向に配置します。また、行間注 (interlinear comments) として行間にコメントが付される場合もあります*22。

4.3 段落の調整処理

字下げ

日本語では段落先頭を1字下げにしますが、中国語では2字下げが基本です。ただし雑誌のように多段組の出版物では1字空けを採用する場合があります*23。この他に凸排 (tupai, itemization) と呼ばれる2行目以降を字下げとする配置も存在します (図6)。一行目の頭に人名・項目名 + コロン (:) を置く場合に使用され、3文字 + コロン分の計4emを字下げ幅として確保します。

*22注が複数行に亘ることもあるようで、後注のような位置づけなのかもしれません

*23最初の段落の字下げを行わなかったり、すべての段落の字下げを無視したりする指定も可能です

ウィドウ、オーファン

組版にはウィドウ (widow)、オーファン (orphan) なる概念が存在し、CLReq では次の通りに言及されています：In the tradition of Chinese composition, an orphan does not make a line, nor does a widow make a page.

ウィドウは段落の最後行が次ページの先頭行に位置する現象を指し、オーファンは段落の最終行に 1 字だけが残る現象として定義されています*24。ウィドウおよびオーファンは、それぞれ以下の操作を通じて回避することができます。

■ウィドウの回避

- ウィドウを前ページに移動させ、版面を超えるように配置する
- 前ページの最終行を次のページに移動させ、ウィドウと合体させる
- 文字数を減らす
- 文字数を増やして、次ページに跨る文章が 2 行以上となるように調整する

■オーファンの回避

- 最終行の 1 行前の最終文字を押し出す
- 段落の文字数を減らす
- 最終行の文字数を増やす

4.4 行の調整処理

禁則処理

禁則処理に関しては、中国本土では GB/T 15834—2011 として国家標準規格が制定されているほか、台湾・香港でも慣習的なルールに基づいて処理が行われます。ただし台湾・香港の新聞組版では禁則処理を行わない場合もあります。また、ぶら下がり*25 は行われません*26。

行末調整と文字組みアキ量設定

複数行にわたる中国語の文章では、最終行を除いて両端揃えを基本とします。したがって欧文の混在、禁則処理、約物の連続等を要因として行長に過不足が生じた場合に、行の調整を目的として以下の処理が行われます。

- 欧文スペースや約物のアキ量を詰める (いわゆる追い込み)
- 分離禁止文字でない文字間を空ける (いわゆる追い出し)

一般には詰める処理を最初に試み、それだけでは調整不能だった場合に空ける処理を行

*24 日本語組版や欧文組版の文脈では、オーファンはページの最終行に次段落の先頭行が残ることを指すため (出典：<https://note.morisawa.co.jp/n/n245d0ff3241a>)、中国語組版におけるオーファンの定義とは乖離があるようです。CLReq ではウィドウとオーファンが共存するケースがあるとも解説されています

*25 行末に句読点が位置する場合、その句読点を版面から飛び出して配置すること。「ぶら下げ」とも

*26 前述の通り繁体字では句読点を中央に配置するため、ぶら下がりを行うことで体裁の悪化が懸念されます

います。約物に関しては、中国本土や香港では、連続する約物や行末・行頭に位置する約物のアキ量を調節しますが、台湾ではベタ打ちとするケースが多いようです。追い込み・追い出し処理を行う際の手順を以下に示します。

■追い込みの順序

- 行末の約物の後をベタ（アキなし）にする
- 欧文スペースを最大で四分まで詰める
- 中黒の前後を最大でベタまで詰める
- 括弧の前後を最大でベタまで詰める
- カンマ・読点・セミコロンの前後を最大でベタまで詰める
- 漢字-欧文間スペースを最大で八分まで詰める^{*27}
- 句点・感嘆符・疑問符を最大でベタまで詰める^{*28}

■追い出しの順序

- 欧文スペースを最大で二分まで空ける
- 漢字-欧文間スペースを空ける^{*29}
- 分離禁止文字を除く文字間を均等に空ける

5 むすびにかえて

日本語との共通点も多い中国語組版ですが、その組版規則に目を通すとやはり細やかな違いが見えてくるものです。特に繁体字と簡体字にみられる組版ルールの差異は、広大な面積や膨大な話者、様々な歴史的経緯を有する中国語ならではの感じました。本稿で紹介した組版規則は CLReq の一部ですので、興味を持たれた方はぜひ原文をお読みいただければと思います^{*30}。

6 参考文献

- W3C Working Group: Requirements for Chinese Text Layout, 2023, <https://www.w3.org/TR/clreq/>.
- W3C Working Group: Requirements for Japanese Text Layout, 2020, <https://www.w3.org/TR/jlreq/>.
- 株式会社モリサワ: MORISAWA PASSPORT 英中韓組版ルールブック, <https://www.morisawa.co.jp/fonts/multilingual/typesetting/>.

^{*27} スペースは四分で固定とし、アキ調整が許容されないこともあります

^{*28} 文章の切れ目を表すことから、これらのアキ調整を許容しない組版スタイルもあります

^{*29} 前述の通りスペースを四分に固定するスタイルや、三分までしか空けることを許さないスタイルも存在します

^{*30} 記事執筆のために CLReq を読破したところ DeepL 無料版の制限に達してしまいが Cookie を削除したら回復した